

# 「縣市環境教育人員（環教大使）国際交流学習」

## 訪日ミッション受け入れ

### 報告書

2024年5月29日～6月4日



特定非営利活動法人

持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)



# 目次

1. はじめに（訪日の経緯） .....	3
2. 2024年5月29日（水） .....	4
3. 2024年5月30日（木） .....	5
(1) 多摩市連光寺小学校 .....	5
(2) 多摩市立和田中学校 .....	6
4. 2024年5月31日（金） .....	7
(1) ユネスコ・アジア文化センター（ACCU） .....	7
(2) 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） .....	8
5. 2024年6月1日（土） .....	9
(1) 新渡戸文化高等学校.....	9
(2) 日本・台湾 小中学校 ESD/環境教育シンポジウム.....	10
6. 2024年6月2日（日）（横浜自然観察の森） .....	13
7. 2024年6月3日（月）（日本科学未来館） .....	14
8. 総括（所見） .....	15
9. 資料.....	16
(1) 日程表 .....	16
(2) 参加者リスト .....	17
(3) その他の資料一覧.....	19

## 1. はじめに（訪日の経緯）



持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）と中華民国環境教育学会（CSEE）との交流は、2021年にESD-J共同代表理事である小玉 敏也（ESD-J共同代表理事・麻布大学教授）がCSEEの招待によりオンラインで持続可能な開発のための教育（ESD）に関する講演を行ったことに始まる。その後、2022年にはESD-J相談役の阿部 治（立教大学名誉教授）、鈴木 克徳（ESD-J共同代表理事・元金沢大学教授）を加えた3名によるオンライン講演を行うとともに、CSEEとESD-Jとの間で連携協力協定を結ぶことを合意した。2023年には、CSEEの招待により上記の3名が9月1日～5日にかけて台湾を訪問し、CSEEの学会で講演を行うとともに、台湾における環境教育、ESDの現状について視察した。その際、CSEEとESD-Jとの連携協力協定の署名式典も行った。

この台湾訪問に際し、台湾側から訪日ミッションに関する協力依頼が行われ、ESD-Jと中華民国教育部（日本の文部科学省に相当）及びCSEEの許理事等との打ち合わせが行われた。訪日ミッションは、教育部主催によるもので、台湾の22の県・市の学校長や教育関係者のESD研修として実施された。ESD-Jとしては、訪問先の推薦を含め、可能な範囲での協力を行うことに合意した。

ESD-Jはまた、ESDに関する適切な学校教員用のテキストの紹介を求められ、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会による『ESD推進の手引（第3版）』を推薦するとともに、台湾側の要請に基づき、文部科学省及び掲載されている学校の承諾を得た。学校の承諾を得るための小玉共同代表理事の尽力の結果、『ESD推進の手引（第3版）』は教育部により中国語に翻訳され、台湾の学校関係者に広く配布された。

訪日ミッションに関しては、その後数回にわたる台湾側との意見交換を経て、日程、参加者等が明らかになった。これを受け、ESD-Jは日本環境教育学会に協力を求め、両者による実行委員会を設立し、支援方策を検討することとした。また、日本台湾交流協会、台北駐日経済文化代表処に訪日ミッションについて通知し、可能な範囲での支援を求めた。いずれの機関もESD-Jによる訪日ミッションへの支援を好意的に受け止め、それぞれの機関から支援を得ることができた。

そのような経緯を経て、2024年5月29日から6月4日にかけて「縣市環境教育人員（環教大使）国際交流学習」と称する訪日ミッションが実現した。訪日ミッションの日程表及び参加者リストは添付の通りである。

6月1日に開催された「日本・台湾 小中学校 ESD/環境教育シンポジウム」は、ESD-Jと日本環境教育学会が共催し、60名あまりの参加者を得て活発な意見交換が行われた。シンポジウム後には、約50名の参加を得て、日台の関係者による交流会が開かれた。



台湾訪問時の研究会の写真



連携協力協定の署名式典



ESD推進の手引  
中国語への翻訳版

## 2. 2024年5月29日(水)



訪日ミッションは、5月29日、朝台北市松山空港を出発し、午前11時過ぎに羽田空港に到着した。



松山空港出発時



羽田空港到着バス乗車時

昼食後、上野公園周辺にて、上野動物園、国立科学博物館、寛永寺等を分散して視察した後、夕刻からはESD-J、日本環境教育学会関係者と訪日スケジュール等について打ち合わせを行い、中国語による東京案内、日本科学未来館のパンフレット等を提供した。



上野公園到着時



上野公園内の多摩木材を活用した舗装



国立科学博物館見学



上野動物園見学

打ち合わせと併せ、一部で研究に関する情報・意見交換も行われた。黄 琴扉教授からの教育における脳科学的観点からの研究の有無についての照会に対し、後日インドのマハトマ・ガンジー平和と持続可能な開発のための教育研究所(MGIEP)による関連論文を提供した。

### 3. 2024年5月30日（木）



#### (1) 多摩市連光寺小学校

訪日ミッションの視察先に東京都多摩市を選んだのは、2009年より全小中学校がユネスコスクールに加盟し、各校が独自のESDを推進してきた実績があったからである。

午前8時30分に都内のホテルを出発し9時30分頃に訪問団は多摩市立連光寺小学校に到着した。学校の入り口には、「熱烈歓迎」という生徒による飾りつけが用意されていた。上履きに履き替えるという文化が無いので、みな下駄箱を大変興味深く観察し、写真を撮っていた。

同校の校庭で学校長から学校の周辺環境に関して説明を受けた。同校の教育活動は多摩丘陵の豊かな自然の中で行われていること、校庭ではヤギを飼育し、子どもの情操を養っていること等の説明があった。その後、全員が校庭から近隣の水田に移動して、5年生の稲作体験を参観した。地元の農家とボランティア団体の協力により、場所の管理がなされ、子どもたちのために作付けの準備が整えられていた。訪問団員は、自国の小学校と比較しながら、ESD-J関係者や小学校関係者に質問したり意見交換をしたりしていた。台湾でも、類似の活動は実施されているとのことで、子どもによる直接体験の重要性や農業体験の価値が共有されたものと思われる。

10時20分頃に、控室（家庭科室）に移動して、連光寺小学校の概要と当日のスケジュールについて簡単な説明を受けた。その後、教室に移動し、全学年の授業参観を行った。各学年・学級で公開する授業内容を明記した中国語訳の資料が配布され、訪問団員が自由に関心のある教室に移動して生活科と総合的な学習の時間の授業を中心に参観した。その授業は、子どもが発表する授業、グループで話し合う授業、教員がリードする授業等の形態は様々であったが、訪問団員は時折子どもに話しかけながら、リラックスした雰囲気の中で参観されていた。他にも、廊下の掲示物や展示物に関心を持たれた方もいた。休憩時間に廊下ですれ違う生徒たちの中には興味深げに質問をしたり、歓迎の意を表したりする者もいた。授業参観終了後の12時頃に、控え室に集合して昼食の準備に取り掛かった。昼食には、多摩市の学校給食が提供された。最初に同校の職員から給食に関する説明があった後、全員が食べながら歓談した。その際にも、給食費、食材、運搬方法等にも話題が及び、自国の昼食と比べながら食事をしていただいていたようである。

学校長の関口 寿也氏から『連光寺小学校とESD』との題で、同校のESDについて30分ほど講演をいただいた。ここでは、学習指導要領とSDGsとの関連性、教科と領域の関連指導に基づく教育課程編成を示したESDカレンダーの紹介、教育資源を活用した授業等の観点から、同校のESDの特徴が説明された。終了後は、訪問団の方々から次々に質問があって、予定時間を超えての非常に活発な議論となった。訪問団員に小学校の校長が多かったせいか、学校経営の観点からの質問が多かった。

13時過ぎには視察を終了し、玄関先で記念写真を撮って、次の訪問先の和田中学校に向かった。



多摩市連光寺小学校の発表



昼食は学校給食



地域と一緒に実施する  
田んぼの授業

## (2) 多摩市立和田中学校

13時30分頃に多摩市立和田中学校に到着し、すぐに控室（図書室）に移動した。学校長からの歓迎の言葉に続いて、当日のスケジュールについて簡単な説明があり、14時頃から校内の授業見学を行った。授業の内容は、1年生は、学年全体で総合「雑巾プロジェクト」の授業を（株式会社）CUREグループを講師に迎えて実施していた。2年生は総合「進路学習：職業と未来の自分」、3年生は総合「進路学習：進路開拓に向けて」を各教室で実施していた。訪問団の方々は生徒に話しかけたり、授業風景を写真におさめたり、同校の教員に質問したりと、熱心に参観されていた。

見学後の14時40分から、控室（図書室）で2部構成の全体会を行った。第1部は、多摩市教育委員会による講演、第2部は和田中学校による講演である。なお会場には、同校関係者に加えて多摩市教育委員会教育長の千葉 正法氏と多摩市校長会会長の多摩市立愛宕中学校校長 竹田 和彦氏も参加されて、冒頭に歓迎のご挨拶をいただいた。

第1部は、多摩市教育委員会教育部教育指導課の池田 豊一指導主事より、『多摩市の進めるESD』との題でご講演をいただいた。ここでは、多摩市のESDの歩み（2009～現在）、「2050年の大人づくり」という理念、各校のESDの概要が説明された。同市が重視するのは、①小中が連携したESDの推進、②SDGsを踏まえたESDの推進、③「多摩市子どもみらい会議」の充実の3点であり、とりわけ③が同市のESDの大きな特徴であると言える。これは、1年に1度、各校の児童生徒が集まって開催されるもので、前半は各校の成果発表、後半は代表間で議論して市政への提言をまとめるというものである。

第2部は、多摩市立和田中学校の金城綾香教諭より、『和田中学校のESD』という題でご講演をいただいた。ここでは、教育目標「自立と共生」とSDGsとの関連、職場体験や環境学習「雑巾プロジェクト」の概要が説明された。同校は、一時低迷していたESDを、今回の訪問を機に再活性化することである。なお同教諭の講演は、英語教諭でありながら流暢な中国語で行い、訪問団から非常に理解しやすいと賞賛の拍手を得ていた。

2つの講演に関する質疑応答を行った後、同校の生徒会役員3名が入室し、セレモニーが行われた。生徒会では、訪問団の来校に合わせて4月3日に発生した台湾の大規模地震へのお見舞い金を集めてきたということで、生徒会長が手渡すことになっていたのである。会長のスピーチの後、最も被害が大きかった花蓮県の学校長がその募金を受け取った。これには、訪問団の方々全員が大いに感激されていた。

この後、わずかな時間で、生徒の授業と清掃活動の様子を見学し、同校の視察を予定通り終了した。最後に玄関先で集合写真を撮って、訪問団は宿泊先に帰った。

※なお、連光寺小学校及び和田中学校の訪問は、東京都多摩地域の情報誌『タウンニュース』（2024年6月20日公開）でも詳しく紹介された。（別添参照）



## 4. 2024年5月31日（金）



### (1) ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

午前10時から、日本教育会館でユネスコ・アジア文化センター（ACCU）より、日本の学校教育におけるESDへの取り組みについて、ユネスコスクールの活動を中心に説明を受けた。ACCUからは、教育協力部の大安 喜一部長、藤本 早恵子氏、浅野 春佳氏が参加した。

ACCUからの説明は、ACCUの概要と主な活動、ユネスコスクールの仕組みと目的、日本におけるユネスコスクールの現状、ユネスコスクール事務局としてのACCUの活動、日本のユネスコスクールの成果と課題、ユネスコスクールを支援するための大学ネットワーク（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク：ASP-UnivNet）、ユネスコ未来共創プラットフォーム事業、ユネスコスクールに関する国際連携等、多岐にわたる体系的、包括的な内容であった。また、ACCUが作成した様々なESD関連資料のリストも提供された。

特に、日本のユネスコスクールの成果としては、①地域との連携、②学校間交流の増加、③評価への認識の高まり、④ユネスコスクール活動を通じた教員や学校の変化が指摘され、また課題としては、①活動テーマの偏り、②ネットワークとしての意識の弱さ、③全国的な支援の仕組みの活用不足等が指摘された。

台湾側からは、ユネスコスクールに高い関心が寄せられ、その仕組みについて詳しい説明を求めるとともに、台湾の学校もユネスコスクールになることができるかとの質問がなされた。これに対し、台湾はユネスコに加盟していないため、台湾の学校はユネスコスクールとしての認定を受けることはできないが、日本等からの情報提供を受け、ユネスコスクールと同様な国内の仕組みを作ることは可能と考えられるとの回答が行われた。

また、ACCUから、台湾の学校との交流を希望する学校があるが、橋渡しをお願いできるかとの相談があり、台湾側からは、具体的な情報が得られれば喜んで橋渡しをするとの好意的な回答がなされた。

		
ACCUによる説明	ユネスコスクールの説明	会場の様子
		
質疑応答	質疑応答	ACCUへの感謝の品の授与

## (2) 地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

午後2時30分より5時過ぎまで、国連大学ロビーの見学の後、環境パートナーシップ会議 (EPC) の会議室で GEOC 及び ESD 活動支援センターの説明が行われた。冒頭、日本側関係者の紹介が行われた。ESD 活動支援センター全国センターからは阿部 治センター長及び加藤 超大事務局長が、EPC から尾山 優子副代表兼事務局長、江口 健介氏並びに、関東地方 ESD 活動支援センター (関東センター) を担当する島田 幸子氏、伊藤 博隆氏、松沼 彩子氏が、九州地方 ESD 活動支援センターから澤 克彦氏が、さらに高崎商科大学の萩原 豪氏、通訳の本間 典子氏が参加した。

尾山 優子 EPC 副代表兼事務局長の挨拶に続き、GEOC の説明が EPC 江口 健介氏により行われた。引き続き ESD 活動支援センター・全国センターの阿部 治センター長による ESD 推進ネットワーク設立の経緯の説明、関東センターの伊藤 博隆氏による関東センターの活動に関する説明があり、その後、活発な質疑が行われた。

GEOC の活動に関しては、国連大学とのパートナーシップの下で進められていること、8 地方の環境パートナーシップオフィス (EPO) の取組の成果を取りまとめ、横展開等を推進するネットワークの結節点として機能しており、国連大学と環境省、環境 NPO の三者による協働事業として運営されている点が強調された。

ESD 活動支援センターの活動に関しては、阿部 治センター長が、市民社会からの提言を受けて文部科学省及び環境省が 2016 年から順次全国センター、地方センター、地域 ESD 活動推進拠点 (地域 ESD 拠点) を整備していったこと等を説明した。その後、関東センターの伊藤 博隆氏より、ESD 推進ネットワークの仕組みと現状に関する説明、関東センターによる取組等について説明が行われた。学校への取組に関しては、地域 ESD 拠点であるエコギャラリー新宿による「まちの先生見本市」、地球温暖化防止活動推進センターとの連携による川崎市の気候変動教育、ESD for 2030 学び合いプロジェクト等の具体例が紹介された。また、関東センターの島田 幸子氏から、地方 EPO と地方センターは、各地方とも同一団体が受託するプロジェクトであり、活動内容に応じて使い分けている旨の補足説明が行われたほか、九州センターの澤 克彦氏からは台湾との活発な交流に関する期待が示された。

質疑は、全国センターと地方センターとの関係、各種支援団体と学校との連携等を中心に、予定時間の午後5時を大幅に超えるまで、大変活発に行われた。



EPC 会場の様子



江口氏による GEOC 説明



阿部氏によるネットワーク説明



伊藤氏による関東センター説明



台湾側参加者による質疑



EPC 会場での集合写真



## 5. 2024年6月1日（土）



### (1) 新渡戸文化高等学校の視察

午前10時に高校に到着し、まず新渡戸文化中学校・高等学校の小倉 良之校長から「新渡戸文化中学校・高等学校教育デザイン」についてご説明頂いた。具体的には、学校の設立の経緯、学校のコンセプト、これまでの台湾との接点、先進的な探究学習のあり方等について説明された。特に日本初の「余白のある時間割」について、生徒が自身の興味関心に基づいて独自にプロジェクトをデザインし、社会課題の解決に対するアクションを考え、実施する探究学習の実践例や斬新な修学旅行（「旅する学校」）について紹介して頂いた。「学びの成果は、テストでなく社会に表現することで確認する」という考えに基づき、社会と繋がる行動者の育成を目指している点に関し、参加者から強い共感が示された。大学受験のシステムの変化に基づき、中学・高等学校における学びの在り方や、伸ばすべき力は自ずと変わっており、大学に入ってから、またその後の社会人としても活躍できる人材を見据えて授業をデザインする柔軟な学びの在り方についても参加者からは大きな感銘を受けたとの発言がなされた。

次に、中学生、高校生の通常授業を自由に見学させてもらい、生徒と「何を学ぶ授業か」「授業のどんなところが楽しいか」等の質疑を行った。また、廊下に展示されていた数多くの成果物を注意深く観察した。

その後は、新渡戸文化学園内にあるクリエイティブラーニングスペース「VIVISTOP NITOBE」を見学し、VIVITA チーフクルーの山内 佑輔氏から「VIVISTOP」の3つの役割をご紹介頂いた。山内チーフクルーは、大学職員、公立小学校の図工専科教員を経て、2020年4月に新渡戸文化学園へ着任、(特非) VIVITA JAPAN と連携し VIVISTOP NITOBE を開設した。この場所は、「教えない・一緒に作る」姿勢を貫き、子どもの主体性や創造性を育む場所で①同学園の小学校から高校の様々な授業で活用、②休み時間や放課後に子どもたちが自由に使う、そして③地域の人（会員）へ開放し、学生と地域の人々が世代を超えて交流し、学び合う場として機能しているとの説明がされた。参加者からは、同学園と「VIVISTOP」の連携の在り方や導入方法についての質問がされた。

最後に短時間であったが、全体に関する質疑応答がなされた。「同学園の教員は皆、山内先生のように独創的・革新的なのか」、「どのようにそのような魅力的な教員を集めているのか」、「同学園の学費について」、「同学園での学びは実際に大学受験に活かされているのか」など、時間が足りなくなるほど多くの質問がされ、参加者の関心の高さが伺えた。

 <p>学校正門</p>	 <p>校長先生からの学校紹介</p>	 <p>授業の自由見学</p>
 <p>展示物の鑑賞</p>	 <p>VIVISTOP の紹介</p>	 <p>質疑応答</p>

## (2) 日本・台湾 小中学校 ESD/環境教育シンポジウム

- 日時：2024年6月1日（土）14:00～18:20      ■ 会場：学習院大学南3号館1階103教室
- 主催者：(特定非営利活動法人) 持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）  
（一般社団法人）日本環境教育学会
- 参加者：台湾の教育関係者 27名、日本の参加者 32名      合計 59名
- 目的
  - 台湾、日本の ESD・環境教育関係者が両国における ESD 推進に関する経験を共有する。
  - 学校教育、社会教育・生涯学習双方を対象とする。また、世界的に重要なテーマになっている気候変動教育についての情報を共有する。
- シンポジウムの概要

予想を上回る総勢 59 名の参加者が各地から集まり、開始直後から参加者の熱気が伝わってきた。

### (1) 開会行事： 司会 鈴木 克徳氏（ESD-J 共同代表理事）

14:00～ 開会挨拶

・主催者を代表して、小玉 敏也 ESD-J 共同代表理事から、今回の台湾教育関係者の訪問の趣旨、訪日に至る経緯、シンポジウムの概要、支援者へのお礼を述べた。

14:20～ 『日本環境教育学会における ESD・環境教育に関する研究』

・福井 智紀氏（日本環境教育学会研究委員長）から、シンポジウムの趣旨と第一部の講演内容と講師の紹介があった。本シンポジウムは、同学会の 3 つの研究委員会の成果発表も兼ねており、ESD に関して、教育評価、SDGs の教育、気候変動教育の観点から報告があるとの説明があった。

### (2) 第一部：日本の ESD・環境教育の経験共有 司会 福井 智紀氏（日本環境教育学会研究委員長）

14:30～ 『日本の学校教育における ESD 実践事例』

・棚橋 乾氏（全国小中学校環境教育研究会顧問）。同学会「環境教育プログラムの評価」研究会の代表としての講演であった。同氏は、学習指導要領と探究的学習の特徴を説明し、宮城県の小学校と東京都の中学校の事例を引用しながら、日本の ESD の優良事例を紹介した。近年の ESD の特徴は、児童生徒が地域で「参加・行動」を起こす事例、行政機関や団体に提言する事例が多いとの報告があった。

15:00～ 『日本の社会教育における ESD～市民による学びの事例から』

・二ノ宮リム さち氏（立教大学教授）。同学会「SDGs の教育」研究会の代表としての講演であった。同氏は、市民が社会の諸課題（人権・共生・環境等）を解決していく上で、ESD が重要な役割を担うことを指摘し、岡山市の公民館を拠点とした行政・企業・学校が連携した ESD の事例、東京都板橋区の市民学習推進センター、東京都昭島市のあきしま市民会議の事例を紹介しながら、社会教育において住民が主体的な学習を切り拓く重要性を述べた。

15:30～ 『ライフスタイル・消費行動から考える学校での気候変動教育』

・小林 知子氏（公益財団法人消費者教育支援センター主任研究員）。同学会「気候変動教育」研究会の代表としての講演であった。同氏は、気候変動問題に「消費者市民」の立場からアプローチする授業プログラムの開発に関する報告をした。そこでは、大学教員と小中高の教員が共同開発したプログラムを、ある小学 4 年生の教室で試行した事例が紹介された。その授業は、気候変動問題に関して、①「問い」を立てる、②調べる、③思考ツールを使って整理する、④決めた行動を実行する、⑤考えを伝え合う、という学習を経て、児童の関心と意欲を高めていった。他校にも応用できるプログラムであった。

第二部：台湾の NEED の経験共有 司会 萩原 豪氏（日本環境教育学会国際交流委員）

16:35～ 『新世代環境教育發展政策推動現況與精進創新』

・許 毅璿氏（中華民國環境教育学会理事）が、台湾で推進する NEED (New-Generation Environmental Education) について、①NEED 推進の背景、②NEED 推進の枠組みと実行戦略、③NEED の現状と未来展望の3点について講演した。NEED は、教育部、地方の環境教育組織、学会、学校が一体となって推進され、関連政策の策定、教員研修、教材開発、国際交流等の方策によって、台湾社会に浸透していているとの報告があった。

17:00～ 『新世代環境教育を戦略とする学校統治－SDGs 持続可能な未来学校計画』（和訳）

・林 俊傑氏（廉使國民小學校長）

17:20～ 『培養學童環境教育行動和影響力』

・施 皇羽氏（彰化縣同安國小學校長）

17:40～ 『緑の博覧会』

・唐 欣怡氏（宜蘭县政府学校環境教育センター）

訪問団の代表として、林氏と施氏は小学校での行政・企業・民間団体等が連携・協働した NEED の取組を紹介し、いずれも学校全体の活性化、児童生徒の学力・リテラシー、教員の力量形成、地域力の向上につながっていると報告した。唐氏は、社会教育施設を拠点とした地域ぐるみの環境教育の取り組みを報告した。特に、例年開催される「緑の博覧会」は、地域の困難な課題を克服し、住民と共に持続可能な未来を切り拓く重要なイベントとして位置づいているとの報告があった。

閉会 司会 小玉 敏也（ESD-J 共同代表理事）

18:10～ 降旗 信一氏（日本環境教育学会会長）と阿部 治氏（ESD-J 相談役）、許 毅璿氏（中華民國環境教育学会理事）から閉会の挨拶があり、本イベント開催の意義が確認された。



日本環境教育学会  
福井研究委員長の発表



全国小中学校環境教育研究会  
棚橋顧問の発表



立教大学二ノ宮教授の発表



消費者教育支援センター  
小林主任研究員の発表



許先生の NEED に関する説明



雲林縣虎尾鎮廉使國民小學  
林校長の発表

■アンケート集計結果

1. 回答者： 15名
2. 本シンポジウムの満足度をお知らせください： 大変良かった12名 良かった 3名
<p>3. シンポジウムに参加されての気づきや学びをお聞かせください：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本と台湾の環境教育、ESDの共通点と先進事例に学ぶことができました</li> <li>● 日本はESD、台湾はNEEDということで、持続可能な社会づくりは国境を越えるんだということを実感した。</li> <li>● 最後の許先生のお話からこの交流の可能性や意義をあらためて感じました。</li> <li>● 台湾も日本も同じような課題がある。台湾の取り組みも先進的だと思いました。</li> <li>● 探求的で、市民参加型で、未来をトランスフォームする志向のESDのあり方を、国境を越えて再確認できました。台湾には今後ももっと行きたいし、学校現場との交流も興味が高まりました。</li> <li>● 台湾のESD事情がよくわかった。総合的な学習の時間がないのによく取り組まれていると思います。</li> <li>● これまでの歴史を築いて来られた皆さまに感謝です。その中に入れていただいていることに勇気づけられています。私にできることを精一杯がんばります。ありがとうございました。猪名川町を変革します。</li> <li>● 社会教育や消費者教育でのESDのことをお聞きできて大変勉強になりました。</li> <li>● Keep learning, dining and going.</li> <li>● 日本對於ESD有不同單位組織一起推動（仮訳：日本ではESDを推進するために様々な団体が協力しています。）</li> <li>● 了解日本ESD的推動及交流（仮訳：日本におけるESDの推進とコミュニケーションについて学びました。）</li> <li>● 瞭解雙方在ESD推動的努力及作法，受益良多！（仮訳：ESD推進における双方の取り組みや実践を理解することは有益である！）</li> </ul>
<p>4. 講師へのコメント、ご感想等、ご自由にご記載ください：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 台湾の方々のパワフルさやユーモアさを、教員人生に活かしていきます！</li> <li>● ご尽力ありがとうございました。</li> <li>● どれも分かりやすかったし、興味深いプレゼンでした！</li> <li>● 許先生を含めて台湾の講師の話しには、日本との共通する部分が多く良かったです。</li> <li>● 皆さん頑張ってください</li> <li>● 次世代に対して、環境を良くしたいという願いと、その思いに基づいた数々の教育実践をお聞きして、大変勉強になりました。</li> <li>● 予定があり、日本の先生のご発表までで退席してしまいました。台湾のご発表もお聞きしたかったです。お土産もあり、とても和やかなシンポジウムでした。ありがとうございました。</li> <li>● Really appreciated contributions.</li> <li>● 日方講師時間控制良好，令人佩服。（仮訳：日本人講師のタイムコントロールは見事だった。） 講師的簡報?容從學校教育、社會教育、消費行動等不同面向關注 ESD，很（仮訳：発表者のプロフィールは？ 学校教育、社会教育、消費者行動など、さまざまな観点から ESD を取り上げた。）</li> </ul>



彰化縣芬園鄉同安國民小學  
施校長の発表



宜蘭縣政府教育處學校  
環境教育中心 唐主任の発表



ESD-J への感謝の品の贈呈

## 6. 2024年6月2日（日）（横浜自然観察の森）



横浜自然観察は、市民が自然と親しみ、自然を知る活動を支援するための社会教育施設であり、環境教育・環境保全ボランティア育成の推進拠点としての役割について学び、実際に森を散策しながらプログラムを体験すること、職員との意見交換を実施することを視察の目的とした。

まず、横浜自然観察の森の松本 麻依氏より、ご挨拶、自己紹介とスライドに基づいて施設紹介をしていただいた。横浜市の緑の量の変化、緑地を守る取り組みや緑地の保全のため横浜市が独自に徴収している「みどり税」について説明していただいた。「生きもののにぎわいのある森」を維持するための活動の柱は、①つたえる・人を育てる（環境教育）、②しらべる（環境調査）、③ととのえる（環境管理）の3つであり、それを横浜市、常駐する専門家（レンジャー）を中心とする同施設、市民ボランティア「友の会」が支えている。

横浜市の小学校をはじめとする数多くの教育機関が年間を通じて同施設を訪問するが、そのプログラムづくりの手順と内容について説明していただいた。先生との打ち合せ①、事前学習、先生との打ち合せ②と現地下見、そして当日学習（3時間程度）の実施というプロセスについて説明された。

次に施設内を自由に見学した後、森の中を実際に散策しながら、子どもたちを対象とした学習プログラムの一部を体験した。五感を使って観察することや、散策の際の注意点などが説明された。フィールドプログラムの最中に質疑を行った。フィールドプログラムは40分程度だったが、参加者からはもっと散策の時間がほしかった、もっと色々な質問をしたかったといった声があがった。

		
施設までの道	案内板	松本さんからの施設概要説明
		
興味深そうに聞く参加者	森の中の散策	観察するポイントの説明
		
参加者からの質疑	散策を楽しむ参加者	お礼の品の贈呈



## 7. 2024年6月3日（月）（日本科学未来館）

午後2時30分～5時にかけて日本科学未来館（未来館）を訪問した。事前交渉により、今回の訪問は台湾教育部による教員研修の一環であるとして、日本科学未来館の好意で入館料を免除していただいた。この場を借りて感謝する。

入館に先立ち、鈴木 克徳氏（ESD-J 共同代表理事）から未来館の展示の概要について説明した。1階は5月で特別展示を終了したため、「地球とつながる」という映像を見ることのみ可能であること、配布した入場券を提示することにより、3階及び5階の常設展示を見ることができると、6階にはシアターがあり、別途料金を支払うことにより鑑賞できるが、今回は時間的制約から鑑賞は困難であること、日本科学未来館による特別な説明がないため、各人が個別に見学をする旨を説明し、それぞれの関心に応じた見学を開始した。3階での「未来をつくる」という常設展示では、「古いパーク」、「インターネット物理モデル」、「ハロー!ロボット」などの展示が、5階での「世界をさぐる」という常設展示では、「国際宇宙ステーション」、「未来をつくりだすちから」、「地球環境とわたし」、「プラネタリー・クライシス」などを見学する機会を得た。また、「ジオ・コスモス」では、よりリアルでみずみずしい地球の姿をデジタルで表現する球体が参加者の高い関心を得ていた。また、最後に集合したミュージアム・ショップも高い関心を引いていた。特に、ガチャが大人気であった。



入口での入場券配布と説明



会場での見学の様子



気候変動の展示



吹き抜けに浮かぶジオ・コスモス



古いパークでの介護ロボ



入口での集合写真



ミュージアム・ショップ



ショップのガチャ

## 8. 総括（所見）



この度の台湾教育訪問団（縣市環境教育人員〔環境大使〕国際交流学習）のミッションの受け入れには、約2年に渡る準備期間を要した。ESD-Jにとって、約30名の外国の賓客を迎えることは近年にない経験であったが、ESDという共通の取組を通じて交流できたことは、両国の教育関係者にとって貴重な財産になったことと思う。私達は、今回のミッションによって、以下の3つの成果を生み出すことができたと考える。

第一は、「日本のESD推進の実態を多面的に理解してもらえた」ことである。今回のミッションは、①日本の小・中・高校のESD実践、②政府・NGOによるESD推進の仕組み、③ESDに活用可能な社会教育施設を紹介することにあつた。訪問団の中心は学校長であつたため、①の授業紹介だけでなく、それを安定的・継続的に支える仕組みを紹介することによって自校の学校経営に活かしてもらいたいと考えていた。訪問団からの質問に、ESD推進のための財政的支援や奨励策、外部団体との連携のあり方に関する内容が多かつたことから、本プログラムが多面的な理解を促す一定の効果があつたものと推察される。

第二は、「ESD-J自身が、〈日本のESDの現在〉をとらえ直す良い機会になつた」ことである。当然のことながら、私達は日常的にESDに係る多くの情報を共有し、多様なESDの実践に出会い、数多くのESD関係者と議論している。しかし、それらは断片的、一時的、表面的であることも多く、必ずしもESDに係る諸事象について十分な理解につながっていない実態にあつた。しかし、訪問団に同行し集中的に視察することで、首都圏という限定された空間ではあつたが、ESDの全体像を把握し、その特質と課題を把握できたように思う。これは、訪問団の受け入れによって認識できたことであれば、今後の私達の活動にも大きな学びと収穫になつたと考える。

第三は、「訪問団との交流によって、日本のESD関係者の刺激になつた」ことである。現在、日本のESDは、ユネスコスクールの加盟数の鈍化、政府の政策的・財政的支援の変化、関与する関係者の減少と高齢化等の問題によって、ある種の停滞期に入っているのかもしれない。国内の関係者のみで議論しても、なかなか打開策を見つけられない現状にあつたが、今回の交流からESDを学ぶ意欲、議論する時の熱気が十分に伝わってきて、もう一度日本のESDを強く推進していく意欲を得ることができた。それは、シンポジウム参加者の感想や懇親会での会話からも口々に言われた言葉であつた。訪問団の熱意ある姿勢は、台湾の人々が民主主義を勝ち取ってきた歴史が背景にあるとすれば、日本のESDも「民主主義の再興」という巨視的な視点から捉え直さなければならないと痛感した。

以上の成果を踏まえて、今回の訪問団受け入れを一過性のイベントにするのではなく、中長期的な交流の契機としたい。今後、どのような交流ができるかについては、早急な結論は出せないが、将来的にESD-Jが日台交流のハブ組織として機能することが期待されるだろう。

最後に、今回の訪日ミッションにご協力をいただいた多くの団体・機関・学校各位に心から感謝する。皆様方のご支援がなければ、今回のミッションの成功はなかつた。この場を借りて、改めて御礼を申し上げます。

（プロジェクト総括 小玉 敏也）



## 9. 資料

### (1) 日程表

月日	活動概要
5/29 (水)	来日 上野公園施設の視察 日本側関係者との打ち合わせ
5/30 (木)	午前：多摩市立連光寺小学校視察 午後：多摩市立和田中学校視察 多摩市教育委員会との意見交換
5/31 (金)	午前：ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 訪問 午後：地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) 訪問
6/1 (土)	午前：新渡戸文化高等学校視察 午後：シンポジウム (学習院大学) 夜：交流会
6/2 (日)	午前：横浜自然観察の森視察
6/3 (月)	午後：日本科学未来館視察
6/4 (火)	離日



## (2) 參加者リスト

1	許毅璿	M	中華民國環境教育學會	教授
	HSU, YI-HSUAN		The Society for Environmental Education in Taiwan (SEET)	Professor
2	黃琴扉	F	國立高雄師範大學	副教授
	HUANG, CHIN-FEI		National Kaohsiung Normal University	Associate Professor
3	李彥頤	M	樹德科技大學	副教授
	LI, YEN-YI		Shu-Te University	Associate Professor
4	李易儒	F	中華民國環境教育學會	專員
	LEE, YI-RU		The Society for Environmental Education in Taiwan (SEET)	EE Specialist
5	楊惠淳	F	中華民國環境教育學會	特約專業翻譯
	YANG, HUI-CHUN		The Society for Environmental Education in Taiwan (SEET)	Professional Interpreter
6	蘇永輝	M	基隆市安樂區西定國民小學	校長
	SU, YUNG-HUEI		Shiding Elementary School, Keelung County	Principal
7	蔡建文	M	新北市蘆洲區成功國民小學	校長
	TSAI, CHIEN-WEN		New Taipei City Minicipal ChengGong Elementary School	Principal
8	許志豪	M	桃園市平鎮區南勢國民小學	校長
	HSU, CHIH-HAO		Taoyuan Municipal Nanshih Elementary School	Principal
9	徐 櫻	F	新竹市政府教育處	調用教師
	HSU, YIN		Department of Education, Hsinchu City Government	Temporary Transfer of School Teacher
10	林仁煥	M	新竹縣竹北市六家國民小學	校長
	LIN, REN-HUAN		Liou Jia Elementary School, Hsinchu County	Principal
11	孔韻菊	F	苗栗縣政府教育處	營養師
	KUNG, YUN-CHU		Department of Education, Miaoli County Government	Dietitian
12	周鳳珠	F	臺中市立育英國民中學	校長
	CHOU, FENG-CHU		Taichung Municipal Yu-Ying Junior High School	Principal
13	施皇羽	M	彰化縣芬園鄉同安國民小學	校長
	SHIH, HUANG-YU		Tongan Elementary School, Changhua County	Principal
14	李韶齡	F	南投縣草屯鎮坪頂國民小學	教導主任
	LI, SHAO-LING		Pingding Elementary School, Nantou County	Director of Educational & Student Affairs
15	林俊傑	M	雲林縣虎尾鎮廉使國民小學	校長
	LIN, CHUN-CHIEH		Lianshih Elementary School, Yunlin County	Principal
16	謝世達	M	嘉義縣梅山鄉大南國民小學	校長
	HSIEH, SHIH-TA		Danan Elementary School, Chiayi County	Principal
17	朱麗乖	F	嘉義市興嘉國民小學	校長

	CHU,LI-KUAI		Singchia Elementary School, Chiayi City	Principal
18	蔡孜怡	F	臺南市安南區安佃國民小學	校長
	TSAI, TZU-YI		Tainan Municipal Andian Elementary School	Principal
19	黃意華	F	高雄市仁武區仁武國民小學	校長
	HUANG, YII-HUA		Kaohsiung Municipal Renwu Elementary School	Principal
20	李國政	M	屏東縣屏東市勝利國民小學	校長
	LEE, KUO-CHENG		Shengli Elementary School, Pingtung County	Principal
21	留啟民	M	花蓮縣立吉安國民中學	校長
	LIU, CHI-MIN		Ji-An Junior High School, Hualien County	Principal
22	林克銘	M	臺東縣東河鄉興隆國民小學	校長
	LIN, KO-MIN		Singlong Elementary School, Taitung County	Principal
23	唐欣怡	F	宜蘭縣政府教育處 學校環境教育中心	主任
	TANG, HSIN-YI		School Environmental Education Center, Yilan County Government	Center Director
24	邱雅莉	F	臺北市文山區武功國民小學	校長
	CHIU, YA-LI		Taipei Municipal Wugong Elementary School	Principal
25	莊秋蘭	F	臺中市太平區長億國民小學	教務主任
	CHUANG, CHIU-LAN		Taichung Municipal Changyi Elementary School	Chief academic officer
26	江佳燁	F	嘉義市政府教育處	營養師
	CHIANG, CHIA-YEH		Department of Education, Chiayi City Government	Dietitian
27	周志榮	M	屏東縣屏東市勝利國民小學	事務組長 Section Chief of General
	CHOU, CHIH-JUNG		Shengli Elementary School, Pingtung County	Affairs

### (3) その他の資料一覧

資料 1	113 年教育部 縣市環境教育人員（環教大使）國際交流學習計畫
資料 2	日本・台湾 小中学校 ESD/環境教育シンポジウムチラシ
資料 3	ウェブサイトに掲載された報告記事 1. 東京都多摩地域の情報誌『タウンニュース』（2024 年 6 月 20 日公開） 2. 台湾教育部のウェブサイトに掲載された報告記事（中国語、日本語仮訳）
資料 4	訪問先機関による資料のリスト
資料 5	日本・台湾 小中学校 ESD/環境教育シンポジウム（資料集）[別添]

## 113 年教育部

### 縣市環境教育人員（環教大使）國際交流學習計畫

◆ 宗旨：

為提升國內教育人員新世代環境教育素養，落實本部「新世代環境教育發展」政策中長程計畫（111-114 年）中策略領域「鏈結國際夥伴關係」，深入了解國際間永續發展教育推動與實行現況，汲取學校實務推動經驗，進一步轉化與應用符合我國學校在地教學情境，因地制宜建構校園永續發展學習藍圖。

◆ 目的：

- （一）對接本部「新世代環境教育發展」政策，提升各縣市政府教育局(處)主管環境教育業務行政人員及環境教育輔導小組(團)成員專業知能，掌握日本氣候變遷教育、永續發展教育、淨零轉型教育等關鍵內涵，並學習學校實踐案例，拓展國際視野。
- （二）宣傳我國學校環境教育推動成果，促進國際環境教育交流，激發創新思維和開發環境教育實務推動多元策略。

◆ 主辦單位：教育部資訊及科技教育司

◆ 協辦單位：中華民國環境教育學會

聯絡人：計畫主持人 許毅璿教授、黃琴扉教授

計畫專員 李易儒專員

◆ 參訪日期：113年5月29日至6月4日（交流活動共7天6夜）

◆ 參加人員：共 22 名（不含計畫隨隊人員 4 名），共計 26 名。

◆ 團員：各縣市政府教育局(處)承辦環境教育業務之行政主管或承辦人員，亦或環境教育輔導小組(團)召集人或核心成員，且 106 年、107 年及 108 年未曾參與本部辦理之環境教育國際交流學習計畫者，經地方政府核定具出國資格者。

No.	姓名 Name	性別 Sex	單位 Institute	職稱 Title
01	許毅璿 HSU, YI-HSUAN	M	中華民國環境教育學會 The Society for Environmental Education in Taiwan (SEET)	教授 Professor
02	黃琴扉 HUANG, CHIN-FEI	F	國立高雄師範大學 National Kaohsiung Normal University	副教授 Associate Professor
03	李彥頤 LI, YEN-YI	M	樹德科技大學 Shu-Te University	副教授 Associate Professor
04	李易儒 LEE, YI-RU	F	中華民國環境教育學會 The Society for Environmental Education in Taiwan (SEET)	專員 EE Specialist
05	楊惠淳 YANG, HUI-CHUN	F	中華民國環境教育學會 The Society for Environmental Education in Taiwan (SEET)	特約專業翻譯 Professional Interpreter
06	蘇永輝 SU, YUNG-HUEI	M	基隆市安樂區西定國民小學 Shiding Elementary School, Keelung County	校長 Principal
07	蔡建文 TSAI, CHIEN-WEN	M	新北市蘆洲區成功國民小學 New Taipei City Minicipal ChengGong Elementary School	校長 Principal
08	許志豪 HSU, CHIH-HAO	M	桃園市平鎮區南勢國民小學 Taoyuan Municipal Nanshih Elementary School	校長 Principal
09	徐 櫻 HSU, YIN	F	新竹市政府教育處 Department of Education, Hsinchu City Government	調用教師 Temporary Transfer of School Teacher
10	林仁煥 LIN, REN- HUAN	M	新竹縣竹北市六家國民小學 Liou Jia Elementary School, Hsinchu County	校長 Principal
11	孔韻菊 KUNG, YUN-CHU	F	苗栗縣政府教育處 Department of Education, Miaoli County Government	營養師 Dietitian
12	周鳳珠 CHOU, FENG-CHU	F	臺中市立育英國民中學 Taichung Municipal Yu-Ying Junior High School	校長 Principal

13	施皇羽 SHIH, HUANG-YU	M	彰化縣芬園鄉同安國民小學 Tongan Elementary School, Changhua County	校長 Principal
14	李韶齡 LI, SHAO-LING	F	南投縣草屯鎮坪頂國民小學 Pingding Elementary School, Nantou County	教導主任 Director of Educational & Student Affairs
15	林俊傑 LIN, CHUN-CHIEH	M	雲林縣虎尾鎮廉使國民小學 Lianshih Elementary School, Yunlin County	校長 Principal
16	謝世達 HSIEH, SHIH-TA	M	嘉義縣梅山鄉大南國民小學 Danan Elementary School, Chiayi County	校長 Principal
17	朱麗乖 CHU, LI-KUAI	F	嘉義市興嘉國民小學 Singchia Elementary School, Chiayi City	校長 Principal
18	蔡孜怡 TSAI, TZU-YI	F	臺南市安南區安佃國民小學 Tainan Municipal Andian Elementary School	校長 Principal
19	黃意華 HUANG, YII-HUA	F	高雄市仁武區仁武國民小學 Kaohsiung Municipal Renwu Elementary School	校長 Principal
20	李國政 LEE, KUO-CHENG	M	屏東縣屏東市勝利國民小學 Shengli Elementary School, Pingtung County	校長 Principal
21	留啟民 LIU, CHI-MIN	M	花蓮縣立吉安國民中學 Ji-An Junior High School, Hualien County	校長 Principal
22	林克銘 LIN, KO-MIN	M	臺東縣東河鄉興隆國民小學 Singlong Elementary School, Taitung County	校長 Principal
23	唐欣怡 TANG, HSIN-YI	F	宜蘭縣政府教育處 學校環境教育中心 School Environmental Education Center, Yilan County Government	主任 Center Director

24	邱雅莉 CHIU,YA-LI	F	臺北市文山區武功國民小學 Taipei Municipal Wugong Elementary School	校長 Principal
25	莊秋蘭 CHUANG, CHIU-LAN	F	臺中市太平區長億國民小學 Taichung Municipal Changyi Elementary School	教務主任
26	江佳燁 CHIANG, CHIA-YEH	F	嘉義市政府教育處 Department of Education, Chiayi City Government	營養師 Dietitian
27	周志榮 CHOU,CHIH-JUNG	M	屏東縣屏東市勝利國民小學 Shengli Elementary School, Pingtung County	事務組長 Section Chief of General Affairs

◆ 交流日期與行程規劃：

本次交流學習之行程於 113 年 5 月 29 日至 6 月 4 日，共計 7 天 6 夜。將拜訪多摩市教育委員會、聯合國教科文組織亞洲文化中心、GEOC 全球環境外展中心，觀摩實踐永續發展教育（ESD）具特色之高中、國民中、小學各 1 所，並前往環境教育特色場域進行實地踏查；亦安排在學習院大學盛大辦理交流座談會，由臺日雙邊進行不同主題的演講，以充分交流臺日推動永續發展教育之現況。

國際學習交流行程表

日期	拜訪對象	研習內容
5/29 (三)	去程班機：長榮 BR-192 07:15 臺北松山機場出發 11:05 抵達日本羽田國際機場 --- 下午：上野公園 (東京都臺東區上野公園 7-20) <a href="https://www.kahaku.go.jp/">https://www.kahaku.go.jp/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>為聚集美術館、博物館、動物園等社會教育設施的公園。參觀國立科學博物館，並與館方人員進行學校環境教育交流。</li> </ul>
5/30 (四)	上午：多摩市教育委員會、多摩市立連光寺小學 (東京都多摩市連光寺 3-64-1) <a href="https://schit.net/tama/esrenkouji/">https://schit.net/tama/esrenkouji/</a> --- 下午：多摩市立和田中學校 (東京都多摩市和田 234)	<ul style="list-style-type: none"> <li>了解地方教育行政機關對於小學、中學 ESD 的推動現況與交流。</li> <li>以環境教育為基礎積極推動 ESD 之學校教學觀摩，並與校長、教職員進行意見交流。</li> </ul>

5/31 (五)	<p>上午：UNESCO 亞洲文化中心 (Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO, ACCU) (東京都千代田區神田神保町 1-32-7F) <a href="https://www.accu.or.jp/about/chart/">https://www.accu.or.jp/about/chart/</a> ---</p> <p>下午：GEOC (Global Environment Outreach Centre) (ESD 活動支援) (東京都澀谷區神宮前 5-53-70)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 與文部科學省合作、承辦 ESD 教材開發/教師研習之公益財團法人，與中心代表進行意見交流。</li> <li>● 拜訪負責關東地方 ESD 活動支援中心營運之 NPO。</li> </ul>
6/1 (六)	<p>下午：新渡戶文化高中 (東京都中野區本町 6-38-1) <a href="https://nitobebunka.ac.jp/about/">https://nitobebunka.ac.jp/about/</a> ---</p> <p>下午：學習院大學 (東京都豐島區目白 1-5-1) <a href="https://www.gakushuin.ac.jp/univ/profile/index.html">https://www.gakushuin.ac.jp/univ/profile/index.html</a> 晚上：晚宴 (welcome party)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 觀摩 ESD 探索式學習教學，並與學校代表進行意見交流。</li> <li>● 由日本環境教育學會與 ESD-J 共同舉辦之學術交流會議，進行氣候變遷、SDGs、教育評量等主題的研究與實務交流、討論。</li> </ul>
6/2 (日)	<p>橫濱自然觀察之森 (神奈川県横浜市榮區上郷町 1562-1) <a href="https://sancyokohama.sakura.ne.jp/">https://sancyokohama.sakura.ne.jp/</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援促進市民親近自然、認識自然的社會教育設施，以及環境教育/環境保護志工培訓的場域，進行體驗活動與交流。</li> </ul>
6/3 (一)	<p>日本科學未來館 (東京都江東區青海 2-3-6) <a href="https://www.miraikan.jst.go.jp/zh/">https://www.miraikan.jst.go.jp/zh/</a> 下午：自由時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 依據國家科學技術基本計畫設立的社會教育設施，參觀「地球、未來、世界」體驗型展示及環境教育學習。</li> </ul>
6/4 (二)	<p>上午：自由時間 下午：返台 (羽田國際機場) ---</p> <p><b>回程班機：長榮 BR-191</b> <b>12:15 日本羽田國際機場出發</b> <b>15:05 抵達臺北松山機場</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自由活動</li> <li>● 返抵國內</li> </ul>

備註：

1. 上述行程將視實際狀況進行必要之適度調整。
2. 服裝部分以輕便好活動為主，5/30 及 6/1 兩日穿著須正式，但不用打領帶。



# 日本・台湾

# 小中学校 ESD/環境教育 シンポジウム



2024/6/1 Sat 14:00-18:30

学習院大学南3号館1階103教室

参加  
無料

このシンポジウムは、台湾、日本の ESD・環境教育関係者が、両国における ESD 推進に関する経験を共有することを目的として開催します。

学校教育、社会教育・生涯学習の双方の教育活動を対象とし、また、世界的に重要なテーマとなっている気候変動教育についての情報も共有します。両国の ESD・環境教育に関する交流・学びの機会に是非、足をお運びください。

## プログラム

### (1) 開会

司会: ESD-J 代表理事 鈴木 克徳  
開会挨拶及び台湾関係者の訪日計画の経緯と概要説明  
(ESD-J 代表理事 小玉 敏也)  
台湾側の挨拶(ビデオ)  
日本環境教育学会における ESD・環境教育に関する研究  
(日本環境教育学会研究委員長 福井 智紀)

### (2) 第一部：日本からの ESD・環境教育の経験共有

司会: 日本環境教育学会 福井 智紀  
日本の学校教育における ESD ～小中学校を中心に  
(「環境教育プログラムの評価」研究会)  
全国小中学校環境教育研究会顧問 棚橋 乾  
日本の社会教育における ESD ～市民による学びの事例から  
(「SDGs の教育」研究会) 立教大学教授 ニノ宮リム さち  
ライフスタイル・消費行動から考える学校での気候変動教育  
(「気候変動教育」研究会)  
公益財団法人消費者教育支援センター主任研究員 小林 知子

### (3) 第二部：台湾からの経験共有

司会: 日本環境教育学会 萩原 豪  
台湾における環境教育・ESD (NEED) の現状と展望  
(中華民国環境教育学会 許 毅璿)  
学校における NEED の取組 (縣市代表者)

### (4) 閉会

司会: ESD-J 代表理事 小玉 敏也  
総括と閉会挨拶  
日本環境教育学会会長 降旗 信一  
ESD-J 相談役 阿部 治  
中華民国環境教育学会 許 毅璿

★詳細・最新のプログラムはウェブサイトをご参照ください。

<https://www.esd-j.org/2024/04/15/taiwansympo/>



台湾の研究者による ESD グループワーク活動

### ～ 交流会のお知らせ ～

- ◆日時: 2024年6月1日(土)  
19:00～21:00
- ◆場所: 和食処「あえん」(学習院大学より徒歩1分)  
東京都豊島区目白2-39-1 トラッド目白2F
- ◆参加費: 7,000 円

お食事をしながら台湾からお越し頂いた教育関係者の皆様と交流できる貴重な機会です。是非ご参加ください!

主催: 特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)  
一般社団法人 日本環境教育学会



参加お申込みは、左記 QR コードまたは以下の URL にアクセスしてください。  
URL: <https://forms.gle/ywDuWvzLoesppBU8>

お問い合わせ: ESD-J 事務局  
Email: [jimukyoku@esd-j.org](mailto:jimukyoku@esd-j.org)

ウェブサイトに掲載された報告記事

## 1. 神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙に掲載された報告記事

- 掲載日：2024年6月20日
- 掲載 URL：https://www.townnews.co.jp/0306/2024/06/20/738465.html

神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙

会社案内 | IR情報 | 事業案内

リアルで地元をもっと楽

ホーム 横浜 川崎 相模原・東京多摩 県央

多摩版 公開：2024年6月20日

X Facebook Messenger Bluesky

台湾教育者

## 小中学校のESD視察

児童生徒との交流も

教育

多摩市立小中学校で取り組むESD（持続可能な開発のための教育）を視察するため5月30日、台湾教育者約30人が市内の小中学校を訪問した。ESD授業の見学のほか、児童生徒らとの交流も行われた。

### 台湾では「永続教育」

多摩市は2009年度から「2050年の大人づくり」をスローガンにESDを推進。身近にある環境や地域をステージにして、持続可能な社会づくりの担い手として必要な価値観と実践力を学校や家庭、地域と連携して取り組んでいる。市内の全小中学校26校がESDの推進拠点であるユネスコスクールに加盟し、各学校の地域や特性を生かしながら、SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえたESDを実践している。



連光寺小で授業を視察する台湾教育者（上）と地震被害の募金を手渡す和田中の生徒

台湾では「永続教育」という名称で、E S Dを推進している。今回は自国でさらにE S Dを推進するために、日本において先進的に進めてきた多摩市のE S Dを視察することなどを目的に、台湾の教員や校長ら教育関係者約30人が来日した。

### **連光寺小・和田中に**

午前中には連光寺小学校を訪問。同校では谷戸にある水田で、貴重な動植物や豊かな生態系の保全に地域ボランティアとともに取り組んでいる様子を見学した。その後、学校に戻りI C Tを活用した総合的な学習の時間での授業時間や給食の様子を視察していた。

午後には和田中学校を訪れ、多摩市E S Dコンソーシアム連絡会（E S D推進に協力する団体、地域関係者）に所属する株式会社キュアグループによる循環型社会をめざした取り組みなどについての出前授業なども見学していった。

台湾の教育者は、学校での取り組みが組織的に行われていることに対して驚き、地域コーディネーターによる学習支援などについての質問などがあった。「台湾の地方部でも田んぼの学習をしているところはあるが、多摩市ほど地域の方々の支援はない」と話していた。また、「小学校ではのびのび学習し、中学校ではより実践的な授業をしている」との感想も聞かれた。

### **地震被害に寄付**

和田中学校では同校の生徒会は台湾地震への募金活動を行っており、この機会に募金を手渡した。同校の生徒は「7日間、朝早く登校して募金活動を頑張った。台湾の校長先生が喜んでくださり、ほかの方々も笑顔になっていたので、うれしく思いました」と喜んでいた。

台湾地震で最も被害が大きかったという花蓮県にある学校の校長が募金を受け取り「中学生が募金を渡してくれて本当にうれしかった」と感謝の気持ちを表した。

多摩市教育委員会の千葉正法教育長は「台湾の方々は熱心に見学をしており参考になったのは。児童や生徒とは英語でコミュニケーションをとっており、気さくに話していたのが印象的だった」と振り返った。

## 2. 台灣教育部的ウェブサイトに掲載された報告記事（中国語、日本語仮訳）

- 掲載日：2024年6月15日

- 掲載 URL：

[https://www.edu.tw/News\\_Content.aspx?n=9E7AC85F1954DDA8&s=74D2C3918AF7895C](https://www.edu.tw/News_Content.aspx?n=9E7AC85F1954DDA8&s=74D2C3918AF7895C)

環教大使赴日交流，汲取ESD教學創新與行動經驗



發布單位：資訊及科技教育司 聯絡人：謝濬安 電話：(02)7712-9138 電子信箱：[edu@edu.tw](mailto:edu@edu.tw) (02)7712-9138



為提升學校環境教育人員專業知能，掌握國際推動永續發展教育（Education for Sustainable Development, ESD）核心內涵，並宣傳臺灣環境教育推動成果，由各縣市政府教育局（處）推派環境教育人員組成「教育部環教大使國際參訪團」前往日本東京，見學ESD在地方教育機關、學校及民間組織教學實務經驗，創發環境教育新思維，藉以建構符合臺灣校園永續發展學習與行動藍圖。

教育部現正推動「新世代環境教育發展（New-generation Environmental Education Development, NEED）」政策，強調環境教育典範轉移，持續深耕以永續發展為導向的環境教育。本次參訪由中華民國環境教育學會與日本可持續發展教育促進委員會（ESD-J）協助規劃，深入了解ESD在校園實踐方式和內容。

本次安排至多摩市立連光寺小學、和田中學進行交流學習，多摩市教育委員會代表也全程陪同，多摩市從2009年起致力推動地方ESD，以「培育2050年的大人」為核心理念，產官學研合作將地方資源導入校園課程，如利用學校綜合學習時間，進行周邊社區自然觀察或農事體驗，並結合數位科技運用平板電腦繪出、寫下或說出今日所學內容，也透過營養午餐食材，傳遞健康飲食、零廚餘觀念，從校園環境布置到課程規劃，學生皆可無形融入學習聯合國倡議的永續發展目標。在高中階段，前往新渡戶文化高中入班觀課，教師以「探索式學習」培養學生，除關注環境面向外，並權衡關注經濟及社會議題，鏈結未來升學與職涯發展，與企業和社區共同合作尋找問題解方。

藉由本次國際交流機會，另安排「日本與臺灣中/小學校ESD暨環境教育研討會」，由臺灣參訪團向日本分享在學校治理、實作行動與師生參與等環境教育成果。日本教師也無私將ESD學校實踐案例、高等教育的社會參與模式和氣候變遷教育推展歷程給予回饋，並強調在實踐聯合國永續發展目標時，應「不遺漏任何一人」，與臺灣目前推動2050淨零排放下「公正轉型」內容不謀而合。

教育部表示，透過這次環教大使國際海外見學交流，汲取日本學校在各學習階段行政與教學推動經驗，讓臺灣環境教育人員更加了解國際間ESD脈動及現況，教育部會持續落實「新世代環境教育發展」政策，將ESD內涵帶入環境教育議題學習，期進一步轉化和應用，發展符合臺灣校園在地學習策略與情境，共同朝永續、淨零校園邁進。

上版日期：113-06-15



【参考】Deep L（無料版）によるネット記事の仮訳

- 環境教育大使がESD教育・学習の革新と実践の経験から学ぶために訪日
- 発行：情報技術・教育部 担当：謝濬安
- 電話：(02) 7712-9138 Eメール：(02) 7712-9138

学校環境教育関係者の専門的知識を高め、持続可能な開発のための教育（ESD）の国際的推進の核心的内容を把握し、台湾における環境教育推進の成果を公表するため、県および市町村の教育機関は、地方教育当局、学校、非政府組織におけるESD教育の実践経験から学ぶため、教育省の環境教育大使国際代表団の一員として、環境教育関係者を日本の東京に派遣した。代表団は、地方自治体の教育機関、学校、非政府組織におけるESD教育の実践経験から学び、台湾の学校とキャンパスの持続可能な発展のための学習と行動の青写真を構築するために、環境教育に関する新しいアイデアを生み出すために、日本の東京に派遣された。

教育部（MOE）は現在、環境教育パラダイムシフトを重視する「新世代環境教育発展（NEED）」政策を推進しており、持続可能な発展を志向する環境教育の育成を続けている。今回の訪問は、中華民国（台湾）環境教育学会と持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）が企画したもので、学校における

ESD の実践と内容を深く理解することができた。

多摩市は 2009 年から地域 ESD の推進に取り組んでおり、「2050 年を見据えた大人の育成」をコアコンセプトに、産官学や研究機関と連携し、学校の総合的な学習の時間を活用して周辺地域での自然観察や農業体験を行ったり、タブレット端末などのデジタル技術を組み合わせて ESD への理解を深めたりするなど、地域資源を学校のカリキュラムに取り入れている。具体的には、総合的な学習の時間を利用して、周辺地域での自然観察や農業体験を行い、デジタル技術と組み合わせて、タブレット端末を使って、今日学んだことを絵で描いたり、文字で書いたり、話したり、栄養価の高い給食の食材を通して、健康的な食事や食品ロスゼロの概念を伝えたりする。キャンパス施設のレイアウトからカリキュラムの立案まで、生徒たちは、国連が提唱する持続可能な開発目標の学習に目に見えない形で統合することができる。高等学校レベルでは、新渡戸文化高校の授業を見学することができた。そこでは、教師が「探求型学習」を用いて、生徒が環境に焦点を当てるだけでなく、経済的・社会的な問題を自分の問題としてとらえ、将来の教育やキャリア形成につなげ、企業や地域社会と協力して問題の解決策を見出す訓練を行った。

このような国際交流の機会に加え、台湾代表団は「日本台湾小中学 ESD 環境教育シンポジウム」を企画し、学校ガバナンス、実践行動、教師・生徒参加といった環境教育の成果を日本と共有した。日本の教員も ESD の学校実践、高等教育における社会参加モデル、気候変動教育の進展について意見を述べ、国連の持続可能な開発目標の達成に向けて「誰一人取り残さない」ことを強調した。これは、台湾が現在推進している 2050 年ネット・ゼロ・エミッション構想の下での「公正な移行」と一致する。

教育部は、今回の海外視察・交流を通じて、環境教育大使が日本の学校現場における様々な学習段階における管理・指導の推進の経験を学んだことで、台湾の環境教育関係者が国際的な ESD の潮流や現状をより深く理解することができたと述べている。教育部は、「新世代のための環境教育の発展」政策を引き続き実施し、ESD を環境教育問題の学習に取り入れ、台湾のキャンパス事情に沿った地域の学習戦略やコンテキストを開発するために、ESD をさらに変革・応用することを視野に入れ、持続可能でクリーンなキャンパスに向けた取り組みを共に進めていく。

## 訪問先機関による資料のリスト

No	日時	訪問先	資料番号	資料名
1	5月30日	連光寺小学校	資料①	台湾使節団来校(連光寺小 ESD 紹介)
			資料②	ESD カレンダー
2	5月30日	多摩市教育委員会	資料③	多摩市の進める E S D について
3	5月30日	和田中学校	資料④	台湾教育関係者訪問 詳細 3
4	5月31日	ACCU	資料⑤	ACCU 事業紹介
			資料⑥	ACCU 共有資料 (リンク)
5	5月31日	GEOC (関東 EPO)	資料⑦	GEOC 施設見学説明資料
			資料⑧	関東 ESDC 説明
6	6月1日	新渡戸文化高等学校	資料⑨	新渡戸文化中学校・高等学校説明資料
			資料⑩	VIVISTOP の活動紹介
7	6月2日	横浜自然観察の森	資料⑪	視察対応 計画書
			資料⑫	視察対応室内レクチャー_当日スライド資料



**特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議**

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201

TEL : 03-5834-2061 FAX : 03-5834-2062 MAIL : jimukyoku@esd-j.org

